

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**



特 許 願

昭和48年5月12日

特許庁長官 三 宅 幸 六 殿

1. 発明の名称 **光学像安定化装置**
2. 発明者
氏 名 **堀玉 泉**
住 所 **埼玉県大宮市緑竹町1丁目824番地**
氏 名 **富士写真光学株式会社内**
3. 特許出願人 **富士写真光学株式会社** (ほか1名)
住 所 **埼玉県大宮市緑竹町1丁目824番地**
(548) **富士写真光学株式会社**
(代 理 人) **伊 藤 弘**
4. 代 理 人 **〒105**
住 所 **東京都港区芝罘平町40番地 大島ビル4階**
氏 名 **大島 國 政 特 許 事 務 所 内**
弁護士(6792) 大 島 道 男
電話 **501-4552**
5. 添付書類の目録

(1) 明 細 書	1 通
(2) 図 面	1 通
(3) 願書副本	1 通
(4) 委任状	1 通



明 細 書

1 発明の名称

光学像安定化装置

2 特許請求の範囲

少くとも、筐体に取り付けられた対物レンズと、接眼レンズと、ジンバル懸架装置を介して入射光軸と射出光軸とがほぼ同一直線上にある正立プリズムとを有する光学装置において、対物レンズと接眼レンズの間に前記正立プリズムを配置し、前記対物レンズの後側主点から前記正立プリズムの入射面までの光学距離と、前記正立プリズムの入射面と射出面の機械距離と、前記正立プリズムの射出面から前記接眼レンズの前側主点までの光学距離の総和の中点を前記正立プリズムの位置に関係なく前記ジンバル懸架装置の回転中心としたことを特徴とする光学像安定化装置。

3 発明の詳細な説明

本発明はカメラ、望遠鏡等の光学装置が振動や動揺を受けた場合、前記光学装置によつて形成される光学像が振動の影響で劣化するのを防止する

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 50 - 5058

④ 公開日 昭50.(1975) 1.20

② 特願昭 48 - 52149

② 出願日 昭48.(1973) 5.12

審査請求 付 (全6頁)

庁内整理番号

⑤ 日本分類

6952 23

104 A4

7244 23

104 D0

6418 23

103 D2

ための光学像安定化装置の改良に関するものである。

カメラ、望遠鏡等の通常の光学装置を手で保持して操作する場合には、しばしば手の震えが光学装置に伝わり、また前記光学装置を航空機、車輦等に移込んだ場合には、航空機、車輦等の振動や動揺が光学装置に伝わって前記光学装置による光学像を劣化させることが比較的多い。光学装置に伝わる振動は、その振巾がたとえ小さくても、カメラ等においては撮影技術係率に引伸されて観察され、望遠鏡等においては接眼レンズによつて対物レンズの像が拡大されて観察されるので、最終的に視覚に訴える像は劣化して観察されるので、振動等による影響は無視出来ない。これまでに、このように光学装置に与えられる振動や動揺による像の劣化を防止するための光学像の安定化装置は種々提案されており、また少量ではあるが製品も市場に出ているが、ほとんどがジャイロ스코プによつて光学系の中にある光学素子の一部を振動等に対して安定に保持する形態を採っており、

本書発刊の目的は又して、朝日新聞の活動
についてその方針を明らかにしている。

[illegible][illegible]

一、 凡在本行存款、放款、汇兑、贴现、押汇、代理收付款项、代理发行、代理保管、代理保险、代理信托、代理其他金融业务，均须遵守本行章程。

[illegible][illegible][illegible][illegible]

像を収束させることによつて、収束正立プリズム
37は図体31が傾いても傾き方によつて元の像
勢を保つことが出来る。

なお図5が傾斜になるのをさけるために、第4
図では本発明の思想に直接関係ない部分、例えば
ジンバル懸架装置のケーシング機構等は記載して
いない。また本発明例に図5の場合について説
明したが、その他種々の装置例えば外鏡、シー
アーツランスマシター等への応用が考えられるこ
とは言うまでもなく、何れも本発明と同一技術内
容のものである。

4図主の簡単な説明

第1図は通常の光字装置が傾いた場合における
光字像の劣化する状態の説明図、第2図は本発明
における正立プリズムの一実施例の側面図、第3
図は本発明による光字像安定化装置の原理を示す
基本構成図で、第4図はその一実施例の断面図で
ある。

第1図において、

1, 1'---対物レンズ、2, 2'---光軸、

結像する点、 θ ---角度、

第4図において、

31---図体、32---対物レンズ、33---
接眼レンズ、34---ジンバル懸架装置、35
---外鏡、36---内鏡構成部材、37---正
立プリズム、38---ベアリング、39---マ
グネット、40---コア、41---コイル、
1---紙面に直角な視線上の点。

特許出願人 代理人 大 島 道 男

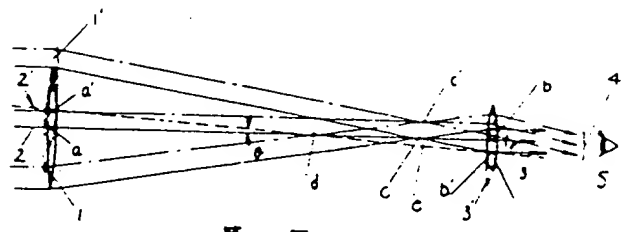
特許 2550-50584
3, 3'---接眼レンズ、4---光軸、5---図、
a, a'---対物レンズ1, 1'の中心の点、
b, b'---接眼レンズ3, 3'の中心の点、
c, c', c'---対物レンズ1と1', 3と3'等の各
焦点位置、d---図体、または傾きの回転中心
の点、 θ , θ' ---角度、

第2図において、

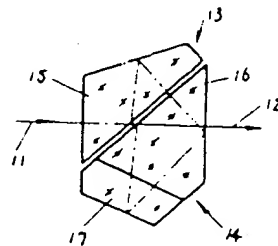
11---入射光軸、12---射出光軸、
13, 14---プリズム、15---入射点、
16---射出点、17---傾斜角、

第3図において、

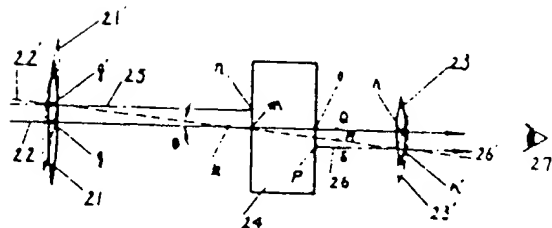
21, 21'---対物レンズ、22, 22'---光
軸、23, 23'---接眼レンズ、24---正立
プリズム、25, 26---光軸、26'---真像、
27---図、g, g'---対物レンズ21, 21'
の中心の点、h, h'---接眼レンズの中心の点、
k---ジンバル懸架装置の回転中心の点、n, m
---入射点の点、O, P---射出点の点、Q---
接眼レンズ23の焦点位置の点、R---接眼レ
ンズ23の焦点位置の点、S---直線26上の



第1図



第2図



第3図

才 1 図

